令和６年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 七里 中学校 ）　　学校番号　２３５　　【様式】

目指す学校像	○生徒が、学ぶ楽しさ、生きる喜びを味わえる学校　　○教職員が、やりがいと誇りを持てる学校 ○保護者・地域の期待に応え、信頼され、愛される学校

重点目標	１　生徒に確かな学力を定着させ、生徒一人一人の学ぶ意欲や能力・個性を伸長させる。 ２　生徒の心情に寄り添い、コミュニケーションを大切にした生徒指導・教育相談を展開する。 ３　家庭及び地域との連携の一層の強化を図り、信頼され、愛される学校づくりを推進する。 ４　職員の授業力向上を目指した研修参加を推進する。

達成度			
	A	緑ぽ達成	（８割以上）
	B	橋ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○生徒は授業に落ち着いて取り組んでいる。 ○R５年度の全国学力・学習調査によると、学校の授業以外に家庭等での学習時間が「２時間以上」の生徒が 29.3%（県平均 41.9%　全国平均 33.7%）であった。逆に「学習時間が１時間未満」の生徒が約 46.7%（県平均 28.3%　全国平均 33.9%）であった。また、土曜日、日曜日などの学校が休みの日の学習時間が２時間以上の生徒は 33.4%（県平均 45%　全国平均 40%）であり、反対に学習時間が１時間未満の生徒は 50.6%（県平均 30.7%　全国平均 34.2%）であった。そのうち「全く学習をしない」と回答した生徒は 25.3%（県　11.9%　全国 12.5%）であり本校では休日は４分の１の生徒がまったく学習に取り組んでいないということが判明した。 【課題】 ○生徒の学習習慣を一層確立させ、その内容や質にも迫る必要がある。 ○教職員が授業改善に取り組み、生徒のエージェンシーを育む「主体的・対話的で深い学びを」を一層充実させる必要がある。	○生徒の学習習慣の定着と学習意欲の向上	・放課後に学習支援教室を定期的に開設し、生徒の学習習慣の定着に努める。 ・小テストの実施や課題提出、宿題等により、家庭での学習時間を確保する。 ・スタディサプリ、ドリルパークの利活用を積極的に推進し生徒の個別最適化に対応する。	・アンケートにより生徒の家庭（授業以外）での学習時間が増えたか。	アンケートの結果 平日の家庭での学習時間　２時間以上　R５：29.3%➡**R6:36.4%** 全くしない　R５:20.0%➡**R6：6.1%** 休日の家庭での学習時間　２時間以上　R５：33.4%➡**R6:34.5%** 全くしない　R５：25.3%➡**R6:16.7%** 平日に２時間以上学習する生徒の割合は 6.1%増加した。休日について横ばいであった。また、平日に全く学習をしないと答えた生徒の割合の減少が顕著にみられた。 昨年に引き続き、月２回放課後に部活動を無しの日を設定し「放課後学習支援教室」を開催し毎回２０名～30 名程度の生徒が参加し学校全体として学習に前向きに取り組もうという機運が見られるようになった。	B	・各教科適切な課題（宿題）を出したり、小テストなどを小まめに実施したりすることで家庭での学習習慣を更に身につけさせる工夫が必要である。また ICT 機器（スタディーサプリやドリルパーク）を活用して家庭での計算や英単語、文法などの繰り返し学習を促す。
		○生徒のエージェンシーを育むために『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた学校全体での取り組みの推進、全職員による研究授業の実施）	・教員が授業中や面談などで生徒に合った学習法などの助言を積極的に行う。 ・ICT 機器を利活用した「探究学習」の推進、「プレゼンテーション」能力の向上を図るための授業を展開する。	・エージェンシーを育むアクティブラーニング型の授業実施回数が増加してきたか。 ・タブレットパソコンの使用頻度が増加したか。	「学びの指標」（授業に関する生徒アンケート結果） 主体的な学び➡3.36（市 3.13）探究的な学び➡3.38（市 3.22） ICT の活用　➡3.09（市 2.99）基礎定内容の定着　➡3.54（市 3.40） 全項目が市の平均を上回った。全職員が研究授業（公開授業）を行い、相互に意見交換を行うことによって質の高いアクティブラーニング型の授業の実施回数が増加した。 タブレットパソコンの使用状況に関する生徒アンケートで「ほぼ毎日使用している」「週に３日以上使っている」の合計が 92.4%であった。」（令和４年：28.8%　令和５年 77.3%）であった。タブレットパソコンの授業等での使用頻度は高い伸びが見られる。	A	引き続き全教職員が研究授業（公開授業）を実施し相互に授業を参観し意見を交換することで授業の質の向上を目指す。 個別最適化のためのタブレット PC の活用法について校内で研修課題の一つとする。
2	【現状】 ○R５年度の全国学力・学習調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」の設問に対して本校の生徒の肯定的な回答は 82.7%であった(県平均 82.9%　全国平均　81.8%)　昨年度の年間 15 日以上の欠席者数は 16%であった。生徒指導担当者会や教育相談担当者会を毎週定期的に開催し、情報共有の徹底及び個々の事案についての組織的な対応について確認を行っている。 【課題】 ○日常のあらゆる場面において「自主的に判断し行動できる能力の育成」を推進していかねばならない。生徒や保護者とコミュニケーションをとりながら丁寧な生徒指導・教育相談の実施が一層必要となる。欠席日数が多い生徒が孤立しないように、学校、さわやか相談室、GRWOTH　教育相談室などと繋がりを持てるように働きかける必要がある。	○個の状況に応じた組織的な支援・指導の推進の徹底と情報共有の徹底	・生徒指導担当者会、教育相談担当者会を通じて学校として必要に応じて積極的に外部の関係機関とりながら組織的に対応し、登校が難しい生徒に対して孤立しないように継続的に働きかける。（外部の相談機関、相談室、growth などと繋がりが持てるようにする）	・生徒指導担当者会及び教育相談担当者会で各学年の指導の体制や課題を毎回確認し適切な指導や支援ができたか。 また、支援が必要と思われる生徒の中でカウンセラーや相談室等と関りを持てない生徒への積極的な働きかけが出来たか。	「生徒指導担当者会（生徒指導委員会）「教育相談・特別支援教育担当者会（教育相談・特別支援教育委員会）で各学年の情報交換、対応方針等を適切に確認しながら組織的な対応ができた。また、必要に応じて関係外部機関と連携を取りながらケース会議を開催するなど実態に応じた対応をすることができた。	B	不登校や教室に入ることが出来ない生徒が増加傾向にあり引き続き粘り強い対応が必要である。生徒、保護者との面談や電話連絡等を重ねながら誰ひとり学びから取り残されることのないように校内教育支援センター（SOLA ルーム）教育相談室、不登校等児童生、徒支援センター(Growth)、フリースクール、ONLINE による授業など個々の生徒に合った学びを提案していく必要がある。
		○自分で考えて自己の安全・生命を守ることができる実践力の育成	・「人間関係プログラム」「道徳」「特別活動」「学校行事」等を通じて潤いのある人間関係構築をする。教員が生徒の心情に寄り添いながら適切な助言を行う。	・学校アンケートで「本校の先生は、悩みや相談に乗ってくれますか」の設問に 85 パーセント以上の肯定的な回答を得られたか。	アンケートの「先生は、悩みや相談に乗ってくれますか」の設問について生徒の肯定的な回答は 99%（保護者 84%）であった。また「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の設問に対して「よくある」「ときどきある」の回答が 89.4%であった。	B	生徒との信頼関係の構築を大切にし、常に生徒の心情に寄り添った指導に徹する。生徒の日々のコミュニケーションやスクールダッシュボード、心と生活のアンケート、面談などを通して生徒の心の悩みをいち早くキャッチできる教職員集団をつくる。
3	【現状】 ○R5 年度　さいたま市さいたま市学習状況調査【生活習慣に関する調査】の「この 1 年間に、ボランティア活動に参加したことがありますか」の設問に対して肯定的な回答は 26.0%であった。また「地域や社会をよくするために何かをして見たいと思いますか。」の設問の肯定的な回答は 77.1%であった。 【課題】 ○実際に地域でボランティア等をしている生徒は少ないが、地域のために何か行動をしたいという生徒が多く、生徒が地域で活躍できるためのシステムの構築が必要である。	○地域に貢献できる生徒、地域で活躍できる生徒の育成	・学校だより、学校ホームページ、学校安心メール等を活用し積極的に保護者や地域に「地域で活躍する七里中生」「地域で育てる七里中生」を発信する。	・学校評価アンケート（生徒・保護者）の「七里中は情報発信とともに意見・要望等の受信等を通して、『家庭・地域』との連携に努めている」の設問に対して８割以上の肯定的な回答を得られるか。	生徒・保護者アンケートの「本校では、生活の様子や活動について情報発信を行い家庭、地域との連携に努めている。」の設問に対して保護者から 87%の肯定的な回答を得た。（生徒：83%）また、学校ホームページ、七里中 BLOG を開設し日々の生徒の様子を発信した。 学校からの配付物を段階的に電子媒体化に取り組んでいる。	B	学校だより、学校ホームページ、七里中 BLOG を活用して地域や保護者に積極的に情報を発信する。
		○学校運営協議会や地域の諸団体等との連携	・学校運営協議会や PTA の会合などで本校生徒が活躍するためのシステム構築に向けて熟議をする	・保護者会、地域での会合、学校運営協議会等で本校の生徒の活躍が評価されたか。	今年度ボタンティアに参加した生徒は延べ 84 名（全校生徒 220 名）であった。ボランティアを受け入れてくださった団体からは好意的な評価が多く寄せられた。また、参加生徒からも「楽しかった」「地域の人と交流できてよかった」「また機会があれば参加したい」等の感想が多く聞かれた。	A	引き続き地域で活躍する生徒、地域で育てられる生徒を目指してボランティア活動を推奨する。
4	【現状】 ○基礎学力の定着と生徒のエージェンシーを育む教育を目指して全職員が取り組んでいる。 【課題】 ○学区の小学校、中学校が学校、地域として抱えている児童・生徒の課題を共有し協働して取り組んでいく必要がある。	○主体的に課題克服に向けて協働して取り組もうとする教員集団の育成 ○コーチングの手法を取り入れた指導方法の研修	・指導者を招聘し全国学力学習状況調査や市学習状況調査の結果の分析を通じて授業改善にいかす ・小・中合同研修でそれぞれの立場から児童・生徒に関わる課題や克服方法について協議をする。	・探究的な学習の基盤となる学びについて校内研修通して学校としての共通認識ができたか。 ・生徒を指導する際にコーチングの手法を用いる場面が増えたか。	教育委員会から指導者を招き「学力向上カウンセリング」を実施した。全国学力・学習状況調査の分析結果を全教職員で共有して日々の授業や生活の指導に必要に応じていかせるようにした。 学びの指標アンケートで全ての項目が市の平均を上回る結果を得ることが出来た。 今年度、小中合同研修会を３回開催し小学校、中学校間で学習や生徒指導・教育相談等の情報交換や指導法について議論をすることが出来た。 教職員との面談を通じて教員が一方的に教えるのではなく、コーチング的な手法を使って生徒自身に考えさえる指導の機会が増えてきていることが確認できた。	B	「教える」から「学ぶ」授業への転換を目指した校内外の研修を実施する。特に教職員が学校及び自己の課題解決に向けた自主的・自発的な研修を支援する。 小学校・中学校お研修・交流をより密に行い小中一貫教育を推進する。

学校運営協議会による評価

実施日令和７年２月２１日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等
放課後学習教室を実施するなど生徒の学力向上に学校として取り組んでいる様子がよく分かった。引き続き生徒の学習について学校で取り組んでもらいたい。
登校できない生徒、教室に入ることのできない生徒が増えてきていることはとても心配である、引き続き生徒や保護者に働きかけを続けてもらいたい。 学びの多様化学校や SOLA ルームに等については生徒、保護者だけではなく地域にも広報をしてもらえるとありがたい。
生徒が地域でボランティアとして活躍できる機会が拡大していることはとても生徒自身にとっても地域にとても意義があることである。今後も家庭と地域、学校が協力して子どもを育てていきたい。
小学校、中学校の連携を深めていくことは大切だと感じる。更にすぐ近くに高等学校もあるので高等学校との連携を充実させることで生徒たちの進路に関する考えを深めることができると思う。